



シグネチャーパビリオン 外観イメージ



①宮田館 ©SANAA ②石黒館 ©FUTURE OF LIFE/EXPO2025 ③中島館 ©steAm Inc. & Tetsuo Kobori Architects All Rights Reserved
 ④落合館 ©2023 Yoichi Ochiai/設計:NOIZ All Rights Reserved. ⑤福岡館 ©Dynamic Equilibrium of Life/EXPO2025
 ⑥河森館 ©2022 Shoji Kawamori/Office Shogo Onodera, All rights reserved. ⑦小山館 ©EARTH MART/EXPO2025
 ⑧河瀬館 ©2023 Naomi Kawase/SUO, All Rights Reserved. シグネチャーパビリオンの詳細は<https://www.expo2025.or.jp/overview/project/>参照

準備着々、高まるワクワク！ 2025年大阪・関西万博

2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)の開催まで2年となった4月13日、会場予定地の夢洲で「起工式」が開催された。式典には岸田文雄 内閣総理大臣をはじめとする政府関係者や、当会の松本正義会長ら地元関係者が出席。「鍬入れ」を行い、工事の無事を祈念した。会場の建設工事もいよいよ本格化してくる。

入場券の前売り販売の年内開始が検討されるなか、今後さらに求められるのが万博開催に向けた全国的な機運の盛り上がりである。この喫緊の課題に対し、当会でも関係者と連携のもといろいろな取り組みを行っている。

今号では、こうした機運醸成に向けた当会の活動や万博開催に向けたさまざまな動きなどを紹介する。

開幕まであと2年、着々と進む準備

公式参加表明国数は目標を達成

万博への公式参加を表明した国・地域ならびに国際機関は、153カ国・地域、8国際機関(2023年3月24日時点)にのぼり、当初の目標である150カ国・地域を上回っている。6月6日には、2回目の国際企画会議(IPM=International Planning Meeting)が開催され、出展を予定・検討している国・地域、国際機関から博覧会責任者約190名が参加した。参加者らは会場予定地を視察するとともに、2025年日本国際博覧会協会(以下、博覧会協会)から出展準備スケジュールや途上国支援プログラムの具体的な内容等について説明を受けた。今後、博覧会協会と公式参加契約が順次締結され、パビリオン建設が進められる。

8名のテーマ事業プロデューサーが担当するシグネチャーパビリオンに関しては、外観イメージが出そろった(P.2)。また、民間パビリオンについては1月に大阪外食産業協会の出展が決定、全13の企業・団体のパビリオンの出展場所が確定した。一部についてはその概要も少しずつ明らかになってきている。

検討進む、来場者輸送

多数の来場者が見込まれる万博会場。人びとの安全で円滑な移動を確保し、かつ大阪・関西圏の人流・物流への影響を最小限に抑える対策が不可欠となる。そこで、博覧会協会では「大阪・関西万博 来場者輸送具体方針(アクションプラン)」を策定し、関係各所と検討を進めている。5月26日にはアクションプランの第2版が公表されている。

来場者輸送は、現状、①Osaka Metro中央線(鉄道)、②JR桜島線(鉄道+シャトルバス)、③淀川左岸線(2期)(新大阪駅・大阪駅等発のシャトルバス)の、公共交通機関を利用する3つの主要ルートが計画されている。さらに、主要鉄道ターミナルからの予約制シャトルバス、中長距離直行バス、水上交通の利用も想定されている。

また、アクションプランでは、一般交通を抑制・分散させるためのTDM(交通需要マネジメント)の実施が必要であるとされており、当会でも地元自治体等とともに具体策の検討を進めている。

「テーマウィーク」や催事にも動き

3月には、大阪・関西万博における催事全体を統括する小橋賢児 催事企画プロデューサーが催事のコンセプト「その一歩が、未来を動かす。」を発表。今夏以降、企業・団体・自治体等が主体となる「参加催事」の公募も始まる予定となっている。

一方、6月2日には、万博の3つのサブテーマ「いのちを救う」「いのちに力を与える」「いのちをつなぐ」などに基づく「テーマウィーク」の8つのテーマが決定した(表1)。「テーマウィーク」では、1週間ごとに地球的課題をテーマに設定。博覧会協会、公式参加者、政府・自治体、出展企業等が主体となり、解決策を話し合う「対話プログラム」や「ビジネス交流」などが実施される。今秋にはカレンダーが決定し、各実施主体がテーマに沿ったプログラムの検討を開始する。あわせて万博会場外での国際会議などの誘致・連携も進められる。

表1 テーマウィーク テーマ構成

分類	テーマ(ウィーク名)	テーマ(問い)	テーマ領域
いのちを救う 人と地球上の生命を脅かす課題	地球の未来と生物多様性ウィーク	豊かで多様ないのちが住む地球を未来に残すために、私たちは何をすべきか?	気候変動、脱炭素、生物多様性、サーキュラーエコノミー、再生可能エネルギー、水素社会、ネイチャーポジティブ、森林破壊、海洋汚染、里山再生、淡水資源 など
	健康とウェルビーイングウィーク	一人ひとりのウェルビーイングが共鳴する社会をどう実現するか?	感染症対策、ウェルビーイング、ゲノム医療、再生・細胞医療・遺伝子治療、PHR、健康寿命、SBNR、安全な水とトイレ など
	平和と人権ウィーク	あらゆる差別をなくし、互いを尊重し合う社会を実現するために、世界は何をすべきか?	飢餓、貧困、格差社会、人権侵害、児童労働・強制労働、人身売買、障がい者参加、ジェンダー平等、LGBTQ、女性の活躍推進、移民、人間の安全保障、多様性と包摂性 など
いのちに力を与える 誰もが幸福で豊かな生活を送るための課題	食と暮らしの未来ウィーク	全ての人々が食と暮らしに困ることがない未来はどのようにすれば実現できるのか?	フードロス、フードテック、食育、食文化、スマート農林水産業、サステナブルファッション、エシカル消費 など
	学びと遊びウィーク	AI時代において人は何を学ばば良いのか?	生涯学習、EDTEC、知財活用、個別最適化学習、遠隔教育、若者自立、教育格差、STEAM、アントレプレナーシップ、世界の遊び など
いのちをつなぐ 社会を豊かにするための課題	未来への文化共創ウィーク	多様な文化が共鳴し、未来への文化が共創されるために、私たちは何をすべきか?	伝統芸能、歴史遺産、地域活性化、観光、アート、音楽、スポーツ、文化芸術、クールジャパン、マンガ・アニメ、eスポーツ など
	未来のコミュニティとモビリティウィーク	誰もがその人らしく生きられるコミュニティとは?	スマートシティ、デジタル田園都市、防災・復興、メタバース、宇宙、ロボット、EV・FCV、自動運転、空飛ぶクルマ、サイバーセキュリティ、MaaS など
いのち輝く 未来社会のデザイン まとめ(最終週)	SDGs+Beyond いのち輝く未来社会 ウィーク	SDGsは達成できるか?そして、その先はどのような?	SDGs、ポストSDGs、いのち、未来社会、Society 5.0 など



ワクワクする未来を体験！～未来社会ショーケース事業～

大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会」の実現を支える最先端の技術やサービスを、「未来社会の実験場」である万博会場の整備、運営、展示、催事などに活用し、来場者にこれまでにない体験を提供する「未来社会ショーケース

事業」。現在、表2のとおり「〇〇万博」と銘打った6つの領域で、事業実施に向け準備が進められている。

ここでは、例として3領域の事業の一部を紹介し、その未来感や楽しさの一端をお届けする。

表2「未来社会ショーケース事業」一覧

内容は2023年2月21日時点のもの。今後変更される可能性があります

スマートモビリティ万博	<ul style="list-style-type: none"> 会場アクセスバス 会場内・外周バス 会場内パーソナルモビリティ ロボット(会場サービス) 空飛ぶクルマ 等
デジタル万博	<ul style="list-style-type: none"> 来場者向けパーソナルエージェント、XR案内 自動翻訳システム 高速大容量通信環境 大型映像、サイネージ プロジェクションシステム 等
バーチャル万博	<ul style="list-style-type: none"> バーチャル会場 XR演出 EXPO共創事業 等
アート万博	<ul style="list-style-type: none"> ウォータープラザ水上ショー 大屋根プロジェクションマッピング 静けさの森インスタレーション パブリックアート パレード 等
グリーン万博	<ul style="list-style-type: none"> DAC+CCS*、メタネーションガス 水素発電、純水素型燃料電池 アンモニア発電 CO₂吸収路面素材 次世代太陽電池 帯水層蓄熱 等 <p>*DAC(Direct Air Capture)：大気中のCO₂を直接回収する技術 CCS(Carbon dioxide Capture and Storage)：二酸化炭素回収・貯留技術</p>
フューチャーライフ万博 フューチャーライフパークを拠点に、さまざまなアイデアを実装するインキュベーション型事業	<ul style="list-style-type: none"> 未来の都市、住宅、環境、交通、文化(フューチャーライフパーク) 未来のヘルスケア(健康医療データ活用、医療機器・福祉用具 等) 未来の食、農業(フードテック、自動化、食文化 等) 未来への行動([TEAM EXPO 2025] ベストプラクティス展示)

スマートモビリティ万博

未来のモビリティを体験！～来場者移動EV(電気)バスの走行～

協賛企業：関西電力、大阪市高速電気軌道(Osaka Metro)、ダイヘン、大林組

会場へのアクセス・会場内の移動用にEVバスを100台導入。EMS(エネルギーマネジメントシステム)やFMS(運行管理システム)などを活用し、運行や充電制御等を一括で管理することで、エネルギー効率の向上やCO₂排出量の大幅削減をめざす。さらに、新技術である走行中に給電するシステムを導入することで、充電中や充電切れによるタイムロス进行を解消。給電の様子が来場者にも“見える”仕掛けも検討されている。また、会場内を走行する車両のうち数台は、ドライバーレスの自動運転レベル4での

運行を実施予定。来るべきゼロカーボン&スマートモビリティ社会がかなりリアルに体験できる。

こんなところに
「未来」が見える！

◎運行管理と一体となったEMS

◎走行中に給電する最新システム



提供：関西電力、大阪市高速電気軌道(Osaka Metro)



提供：関西電力、大阪市高速電気軌道(Osaka Metro)

バーチャル万博

世界中からだれもが参加できる新たな万博のカタチ！～バーチャル会場「空飛ぶ夢洲」～

協賛企業：日本電信電話

オンライン空間上に3DCGで夢洲会場を再現。AR（拡張現実）やVR（仮想現実）等のバーチャル技術により、リアルとバーチャルが相互に連動するさまざまな取り組みが展開される。バーチャル会場内ではパビリオン内部の展示や催事も鑑賞できる。

また、実際に会場に来ることができない障がいのある

方や高齢者、さらには世界中の人びとが自由に参加できる、インクルーシブ(包摂的)な万博を実現。自分のアバターを通して、バーチャルならではの体験、そして、ここでしか出会えない人びととの触れ合いを楽しむことができる。



提供：日本電信電話

こんなところに
「未来」が見える！

◎リアルとバーチャルが相互に連動

◎だれもが参加できる
インクルーシブな万博を実現

アート万博

空と海を感じながら楽しむ圧倒的なスペクタクル！～ウォータープラザ水上ショー(仮称)～

協賛企業：サントリーホールディングス、ダイキン工業

大屋根リングの内側の水面で、シグネチャーパビリオンに隣接する憩いの空間「ウォータープラザ」を舞台に、半年間の会期中、毎日水上ショーが開催される予定。

ショーのテーマは、「いのち輝く未来」にとって欠かせない“水”と“空気”。心に残るストーリーが、

子どもから大人まで世界中の人びとがワクワクするような圧倒的な演出で届けられる。水や自然の恵み、そして空気の可能性や価値に思いを寄せ、未来に向けて、今を生きる私たちがすべきことを楽しみながら考える絶好の機会となるだろう。

こんなところに
「未来」が見える！

◎“水”と“空気”で描く
未来へのメッセージ

◎今を生きる私たちが何をすべきかを
ともに考えるイベント



提供：サントリーホールディングス、ダイキン工業

「未来社会ショーケース事業」では、このほかにも ●「空飛ぶクルマ」の運航ならびに ●会場内ポート運営（スマートモビリティ万博）、●来場者向けパーソナルエージェント、●自動翻訳システム、●プロジェクションシステム（デジタル万博）、●静けさの森インスタレーション（アート万博）、●施設空調エネルギーマネジメント実証（グリーン万博）といった事業の実施がすでに公表されている。

今後も順次発表される、未来社会の披露をめざす企業の取り組みにご注目ください。



全国的なPRに一層の注力を

20 23年内には入場券の前売り販売の開始が検討されている。発売直後に多くの枚数を売り上げ、スタートダッシュをかけることで一層の盛り上がりにつなげていきたいところであるが、万博に対する全国的な認知や来場意向は、まだ十分といえる段階にはなく、全国さらには海外も含め、あらゆる層の関心および参画意識の向上をはかることが急務となっている。

この喫緊の課題に対する一策として、博覧会協会では、地元自治体・経済団体に加え、全国の経済団体の代表者等が参画する「機運醸成委員会」(委員長：松本正義 博覧会協会副会長(関経連会長))を設置し、官民一体で国内外に向け万博のPR活動を推進する体制を整備した。6月12日に開催された第1回総会では、「2025年日本国際博



覧会 機運醸成行動計画ver.1」が取りまとめられ、これに基づいて経済界および全国の自治体等が取り組みを進めていくことで合意した。今後、まずは開幕500日前や前売り入場券の発売開始前後にあたる今年10~12月をターゲットとして、博覧会協会を中心に各種PRツールを用意し、各企業や自治体の協力を仰いで集中的なPRを行う予定である。こうした取り組みへの協力を会員企業・団体の皆さまにもお願いするとともに、当会としてもあらゆる機会をとらえて機運醸成に注力していく。

今年11月には開幕500日前を迎える、大阪・関西万博。今後も催事の公募、テーマウィークプログラム等への協賛募集やボランティアの募集などが控えている。万博の成功には人びとの「行ってみたい、体験してみたい」というワクワクする思いと、その思いに十分に答えるコンテンツが欠かせない。さまざまな発表に期待を膨らませつつ、皆さまの一層のご支援・ご協力をお願いしたい。

(産業部万博推進室 小池弥生・入江碧)

*当会では、大阪・関西万博に関する関係団体の動きをダイジェストでお届けするニュースレター「EXPO 2025 Updates」を発行しています。バックナンバーは当会ホームページで公開しています。



大阪・関西万博をみんなで盛り上げよう!

万博の機運醸成については、すでに多くの企業・団体の皆さまにご協力いただいております。あらためて御礼申し上げます。

開幕まであと2年を切り、前売り券の発売も控えるなか、さらなるPR・機運醸成をはかり、万博を盛り上げていきましょう。機運醸成の指針となる「行動計画ver.1」は博覧会協会ホームページにて公開されています(下の二次元バーコード参照)。他社事例なども参考にいただき、ぜひご検討ください。

会員企業・団体の皆さまのご協力をいま一度お願い申し上げます。



〈取り組み例(一部)〉

- 社屋デジタルサイネージでの動画放映
- 万博仕様ナンバープレートへのつけ替え
- 車両のラッピング
- 自社行事・イベントへのミャクミャクの出演
- 店舗でのポスター、懸垂幕等の掲示

●お問い合わせ

関経連 産業部万博推進室
TEL06-6441-0106



車両のラッピング(大阪モノレール)



広告スペースでの動画放映(日本生命保険)



社員食堂でのPR(三菱UFJ銀行)